

平成 20 年度

社会福祉法人 名古屋ライトハウス

# 東部・西部施設事業概要



光 和 寮  
(障害者支援施設)

ガイドネットあいさぽーと  
か わ な

港ワークキャンパス  
(多機能型事業所)  
み な と

明 和 寮  
(障害者支援施設)

みなとガイドネット  
黎明荘・あかり  
港区障害者地域生活支援センター  
地域活動支援センター **あちえっとほーむ**  
**わくわくキッズ**

就労移行支援事業<名古屋東ジョブトレーニングセンター>  
就労継続支援事業 B 型  
生活介護事業<デイサービスセンター クリエイト川名>  
施設入所支援  
居宅介護等・移動支援事業  
福祉ホーム

就労継続支援事業 A 型<ライトハウス名古屋金属工場>  
就労継続支援事業 B 型<KAN 食品開発センター>  
福祉ホーム

就労移行支援事業<港ジョブトレーニングセンター>  
就労継続支援事業 B 型<ビーサポート>  
生活介護事業<ぷちとまと>  
施設入所支援  
居宅介護等・移動支援事業  
福祉ホーム  
指定(委託)相談支援事業<Kira らぼーと>  
地域活動支援事業  
児童デイサービス

## はじめに

当法人3社会就労センターでは平成20年1月1日に障害者自立支援法への移行が完了し、平成20年4月には就労継続事業と施設入所支援事業が併用で利用できない自立支援法の制約から港ワークキャンパスの完全福祉ホーム化、明和寮の一部福祉ホーム化を実行し、また、事業の更なる合理化・効率化を目指し、光和寮「KAN食品開発センター」事業を港ワークキャンパスに移管しました。

平成20年度はこうした新しい体制の元での本格的な事業活動を展開してきました。港ワークキャンパスにおいては新作業棟の建築工事を行い、「KAN食品開発センター」の移設と食品レトルトパック事業の準備を進めました。明和寮においては、平成19年度からの大規模修繕工事が11月に完了し、南側玄関の整備とともにエレベーター・ボイラー・キュービクル設備が更新され、設備面における利用者の利便性と安全性を向上させました。光和寮においては、平成21年度開始を目指し、生活介護事業から分離する形での視覚障害者利用を想定した地域活動支援センター創設と入所支援事業の一部福祉ホーム化の準備を名古屋市当局と協議しながら進めてまいりました。この間、障害者自立支援法の報酬単価改正や同法3年後の見直し動向を踏まえながら、各施設とも新規事業である生活介護事業、就労移行支援事業の人的・設備的強化と運営安定化のための利用者確保を進めるとともに、経過措置での施設入所支援利用者、福祉ホーム利用者の生活の安定と更なる地域生活移行への支援に努めてまいりました。

就労支援事業では、本年度後半の急激な経済状況の悪化から受注量の激減、売上の低迷の影響を受け、作業量の確保と職域拡大に大変な腐心をしました。引き続き各事業とも景気に左右されにくい自主製品の開発や安定的な作業量確保に努めているところです。

移動支援・居宅介護等事業（みなとガイドネット、ガイドネットあいさぽーと）は慢性的なヘルパー不足問題を抱えつつ、少ない職員体制の中で利用者のニーズに最大限応えられるよう努力しております。地域活動支援事業（地域活動支援センターあちえつとほーむ）、児童デイサービス（わくわくキッズ）は、体制面・運営面とも安定化の方向にあり、更なる活動内容の充実に努めました。港区障害者地域生活支援センターにおいては、通常の相談業務に加え自立支援協議会の運営、名古屋市賃貸住宅入居等サポート事業、サービス利用計画への積極的な取り組み等活発に活動してまいりました。

本概要は、私ども法人の東部・西部施設、事業の平成20年度の活動状況であります。

ご一読いただき、ご指導、ご助言をいただきますようお願いいたします。

# 目 次

## はじめに

1	施設のあらまし・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1.	施設の規模	
2.	定 員	
3.	職 員 数	
4.	法人組織図	
2	施設利用者概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
1.	利用者の現状（各事業別）	
(1)	光和寮	
(2)	ガイドネットあいさぽーと	
(3)	かわな	
(4)	港ワークキャンパス	
(5)	みなと	
(6)	明和寮	
(7)	みなとガイドネット	
(8)	黎明荘	
(9)	あかり	
(10)	港区障害者地域生活支援センター	
(11)	地域活動支援センター あちえつとほーむ	
(12)	わくわくキッズ	
3	就労活動の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	13
1.	光和寮・港ワークキャンパス・明和寮	
(1)	就労時間	
(2)	年間売り上げの推移	
(3)	平均工賃の推移	
4	各事業所の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15
1.	各事業部	
(1)	光和寮	
(2)	港ワークキャンパス	
(3)	明和寮	
5	QMS活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	32
6	その他の活動について・・・・・・・・・・・・・・・・	34
1.	東部施設	
2.	西部施設	

# 1 施設のあらまし

## 1. 施設の規模

### 東部施設

	敷地面積	建 物 面 積		
		管理・生活部門	作業部門	合 計
光和寮	1,802.35 m <sup>2</sup>	1,655.24 m <sup>2</sup>	1,259.45 m <sup>2</sup>	2,914.69 m <sup>2</sup>
クリエイト川名	光和寮敷地内	—	—	287 m <sup>2</sup>
かわな	316.50 m <sup>2</sup>	623.78 m <sup>2</sup>	—	623.78 m <sup>2</sup>

### 西部施設

		敷地面積	建 物 面 積		
			管理・生活部門	作業・倉庫部門	合 計
港ワーク キャンパス	入居棟・作業棟	2,941 m <sup>2</sup> (市有地)	1,121.41 m <sup>2</sup>	3,665.94 m <sup>2</sup>	4,787.35 m <sup>2</sup>
	第二工場	330.57 m <sup>2</sup>	—	280.24 m <sup>2</sup>	280.24 m <sup>2</sup>
	寛政町倉庫	556.59 m <sup>2</sup>	—	318.96 m <sup>2</sup>	318.96 m <sup>2</sup>
み な と		港ワーク敷地内	和室 14.58 m <sup>2</sup> 洋室 16.56 m <sup>2</sup>	—	—
明 和 寮		7,068 m <sup>2</sup> (市有地)	2,867.59 m <sup>2</sup>	1,279.60 m <sup>2</sup>	4,147.19 m <sup>2</sup>
みなとガイドネット		明和寮敷地内	43.92 m <sup>2</sup>	—	—
黎明荘		明和寮敷地内	291.60 m <sup>2</sup>	—	—
あ か り		明和寮敷地内	和室 20.00 m <sup>2</sup> 洋室 20.00 m <sup>2</sup>	—	—
港区障害者地域生活支援センター		賃貸物件 (3事業同一 敷地)	—	—	21.20 m <sup>2</sup>
あちえつとほ一む			—	—	91.91 m <sup>2</sup>
わくわくキッズ			—	—	81.86 m <sup>2</sup>

## 2. 定 員（変更、各事業ごとに細かく）

### 光和寮

- 就労移行支援事業<名古屋東ジョブトレーニングセンター> 18名
- 就労継続支援事業B型 80名
- 生活介護事業<デイサービスセンター クリエイト川名> 20名
- 施設入所支援 (25室) 50名

### かわな

- 福祉ホーム (内世帯用居室1戸) 15名

港ワークキャンパス

- 就労継続支援A型<ライトハウス名古屋金属工場> 60名
- 就労継続支援B型<KAN食品開発センター> 20名

みなと

- 福祉ホーム (20戸) 20名

明和寮

- 就労移行支援<港ジョブトレーニングセンター> 12名
- 就労継続B型<ビーサポート> 100名
- 生活介護事業<ぷちとまと> 20名
- 施設入所支援 (23室) 46名

黎明荘

- 福祉ホーム (5戸) 10名

あかり

- 福祉ホーム (17戸) 20名

地域活動支援センター あちえつとほ一む

- 地域活動支援事業 14名

わくわくキッズ

- 児童デイサービス 10名

3. 職員数 単位はすべて ( 人 )

光和寮

	管理者	サービス 管理責任者	職業指導員	生活支援員	就労支援員	看護師	栄養士	調理員	その他	常勤換算 職員数計
就労移行支援事業		1	1	1	1	—	—	—	—	3.9
就労継続支援事業B型	1	1	9	2	—	—	—	—	—	9.7
生活介護事業		1	—	4	—	1	—	—	1	5.2
施設入所支援		—	—	—	—	—	1	—	2	3

ガイドネットあいさぽーと

	管理者	サービス 提供責任者	登録 ヘルパー	常勤換算 職員数計
居宅介護等・移動支援事業	1	1	20	1

かわな

	管理者	生活支援員	調理員	常勤換算 職員数計
福祉ホーム	光和寮兼務	2	1	3

港ワークキャンパス

	管理者	サービス 管理責任者	職業指導員	生活支援員	就労支援員	看護師	栄養士	調理員	その他	常勤換算 職員数計
就労継続支援事業A型	1	1	8	1	—	—	—	2	8	18.5
就労継続支援事業B型		1	2	1	—	—	—	—	2	5

みなと

	管理者	生活支援員	調理員	常勤換算職員数計
福祉ホーム	ワーク兼務	3	1	3.9

明和寮

	管理者	サービス管理責任者	職業指導員	生活支援員	就労支援員	看護師	栄養士	調理員	その他	常勤換算職員数計
就労移行支援事業		0.5	1	1	1	—	—	—	—	3.5
就労継続支援事業B型	1	1.5	16	2	—	—	—	—	—	19.5
生活介護事業		1	—	3	—	1	—	—	—	5
施設入所支援		0	—	—	—	—	1	—	地域生活推進員 3	4

みなとガイドネット

	管理者	サービス提供責任者	登録ヘルパー	常勤換算職員数計
居宅介護等・移動支援事業	1	2	24	3.5

黎明荘

	管理者	生活支援員	調理員	常勤換算職員数計
福祉ホーム	明和寮兼務	1	1	2

あかり

	管理者	生活支援員	調理員	常勤換算 職員数計
福祉ホーム	明和寮兼務	3	1	4

港区障害者地域生活支援センター

	管理者	相談支援 専門員	事務員	常勤換算 職員数計
指定（委託）相談支援事業	1	4	1	3.5

地域活動支援センター あちえつとほーむ

	管理者	指導員	常勤換算 職員数計
地域活動支援事業	生活支援 センター兼務	6	2.7

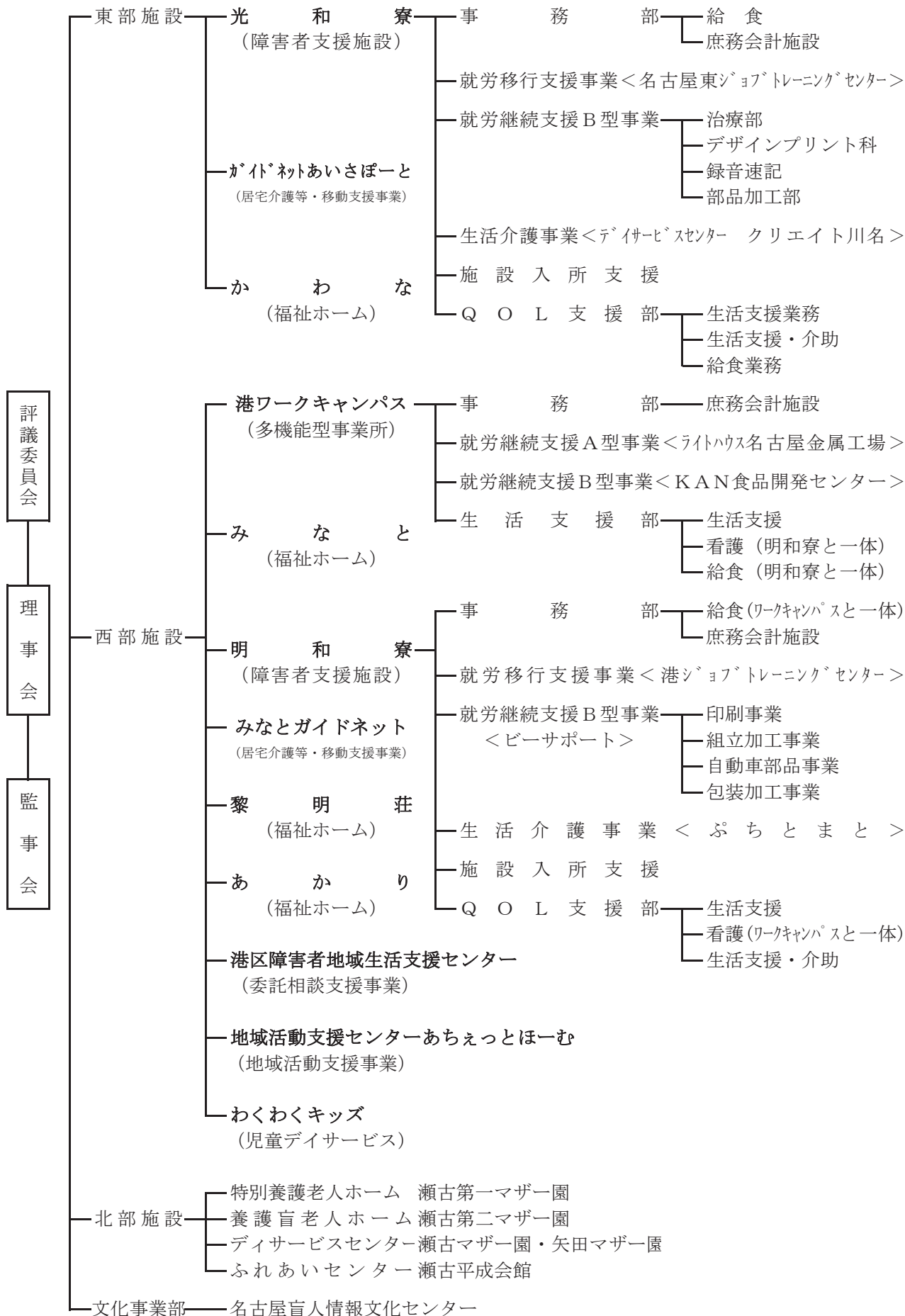
わくわくキッズ

	管理者	サービス 管理責任者	指導員	常勤換算 職員数計
児童デイサービス	1	(1)	3	4

( ) 内は兼務



4. 法人組織略図



## 2 施設利用者概要

### 1. 利用者の現状

※単位はすべて（人）

#### (1) 光和寮

○就労移行支援事業<名古屋東ジョブトレーニングセンター>

##### ①入退所状況

性別	期首在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	9	11	5	14	—
女	4	5	4	6	—
計	13	16	9	20	18

##### ②障害種別状況

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合計
4	7	0	0	6	3	20

##### ③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
3	8	5	3	1	0	20

○就労継続支援事業B型

##### ①入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	39	8	2	45	—
女	19	1	1	19	—
計	58	9	3	64	80

##### ②障害種別状況

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合計
32	29	1	0	1	1	64

##### ③年齢構成（事業報告書レベルで）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
0	8	9	17	26	4	64

○生活介護事業<デイサービスセンター クリエイト川名>

##### ①障害種別状況

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合計
40	10	1	1	0	0	52

##### ②障害程度区分

未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
0	2	20	14	9	5	2	52

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
0	1	7	5	10	29	52

○施設入所支援

①障害種別状況

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合計
19	18	1	0	0	0	38

②障害程度区分

未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
1	2	17	16	2	0	0	38

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
0	6	3	10	17	2	38

(2) ガイドネットあいさぽーと

○居宅介護等・移動支援事業

①障害種別状況

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合計
41	1	0	0	0	0	42

②障害程度区分

未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
39	1	0	1	0	0	1	42

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
4	2	4	6	10	16	42

(3) かわな

○福祉ホーム

①障害種別状況

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合計
3	9	0	0	0	0	12

②年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
0	1	0	3	5	3	12

#### (4) 港ワークキャンパス

○就労継続支援事業A型<ライトハウス名古屋金属工場>

##### ①入退所状況

性別	期初在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	43	18	8	53	—
女	4	0	1	3	—
計	47	18	9	56	60

※3月31日退所(男7名)は本年度の入所者、退所者に含まない。

##### ②障害種別状況

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合計
11	33	1	1	8	2	56

##### ③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
0	4	5	15	20	12	56

○就労継続支援事業B型<KAN食品開発センター>

##### ①入退所状況

性別	期初在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	9	3	3	9	—
女	4	0	0	4	—
計	13	3	3	13	20

※4月1日入所(男2名)、3月31日退所(男1名)は本年度の入所者、退所者に含まない。

##### ②障害種別状況

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合計
3	7	1	0	2	0	13

##### ③年齢構成(事業報告書レベルで)

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
0	2	3	3	2	3	13

#### (5) みなと

○福祉ホーム

##### ①障害種別状況

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合計
6	14	0	0	0	0	20

##### ②年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
0	1	2	4	7	6	20

## (6) 明和寮

○就労移行支援<港ジョブトレーニングセンター>

### ①入退所状況

性別	期初在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	3	19	3	19	—
女	1	5	2	4	—
計	4	24	5	23	12

### ②障害種別状況

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合計
1	5	0	0	16	3(2)	25(2)

( ) 内は重複障害者数

### ③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
5	8	6	2	2	0	23

○就労継続B型<ビーサポート>

### ①入退所状況

性別	期初在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	85	0	2	83	—
女	21	0	1	20	—
計	106	0	3	103	100

### ②障害種別状況

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合計
16	77	1	0	9	0	103

### ③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
0	4	13	32	28	26	103

○生活介護事業<ぷちとまと>

### ①障害種別状況

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合計
1	10	0	0	5(4)	0	16(4)

( ) 内は重複障害者数

### ②障害程度区分

未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
0	0	1	0	3	1	7	12

### ③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
2	3	1	0	3	3	12

○施設入所支援

①障害種別状況

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合計
9	31	0	0	2	0	42

②障害程度区分

未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
0	4	15	17	5	1	0	42

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
0	0	5	13	13	11	42

(7) みなとガイドネット

○居宅介護等・移動支援事業

①障害種別状況

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合計
22	11	0	0	0	0	33

②障害程度区分（移動支援事業は含まれない）

未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
0	0	0	3	3	7	7	20

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
4	2	1	5	5	33	50

(8) 黎明荘

○福祉ホーム

①障害種別状況

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合計
2	5	0	0	1	0	8

②年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
0	1	0	1	4	2	8

(9) あかり

○福祉ホーム

①障害種別状況

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合計
1	16	0	0	1(1)	0	18(1)

( ) 内は重複障害者数

②年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
0	0	0	4	7	6	17

(10) 港区障害者地域生活支援センター

○指定（委託）相談支援事業＜Kiraraぽーと＞

①障害種別状況

※重複障害の方は再掲しています。

	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他	合計
障害者	171	1	65	22	1	4	5	269
障害児	6	9	28	0	4	0	0	47
合計	177	10	93	22	5	4	5	316

(11) 地域活動支援センター あちえっとほーむ

○地域活動支援事業

①障害種別状況（うち重複7）

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合計
9	32	1	0	24	5	64

②年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
0	4	8	6	16	30	64

(12) わくわくキッズ

○児童デイサービス

①障害種別状況

肢体+知的障害	視覚+肢体+知的障害	知的障害	合計
9	1	15	25

### 3 就労活動の概要

#### 1. 光和寮

○就労継続支援事業B型

##### (1) 就業時間

年間就業時間	年間休日	1日の就業時間
1, 771時間	111日及び誕生日休暇	7時間

就労時間 8時30分～16時50分

休憩時間 ①10時00分～10時10分

②12時00分～13時00分（昼食）

③15時00分～15時10分

##### (2) 年間売上高の推移

単位（千円）

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
年間売上合計	62,047	65,929	101,459	115,588	68,764

##### (3) 平均工賃の推移

単位（円）

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
最高工賃	157,073	134,792	191,040	332,223	298,867
最低工賃	6,678	10,859	12,360	12,301	8,930
平均工賃	47,701	41,771	51,856	55,324	50,470

#### 2. 港ワークキャンパス

○就労継続支援事業A型<ライトハウス名古屋金属工場>

##### (1) 就業時間

	年間就業時間	年間休日	1日の就業時間
A	1, 439時間	111日及び誕生日休暇	5時間40分
B	1, 693時間		6時間40分
C	1, 947時間		7時間40分

就労時間 8時20分～**Ⓐ**15時00分 **Ⓑ**16時10分 **Ⓒ**17時10分

休憩時間 10時10分～10時20分

12時00分～12時50分（昼食）

15時00分～15時10分（**Ⓑ**と**Ⓒ**のみ）

##### (2) 年間売上高の推移

単位（千円）

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
年間売上合計	551,037	591,637	630,730	669,705	391,634

##### (3) 平均工賃の推移

単位（円）

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
最高工賃	283,250	285,070	314,538	299,181	298,864
最低工賃	57,810	54,440	55,860	60,707	55,967



平均工賃	110,020	109,480	103,802	117,371	116,761
------	---------	---------	---------	---------	---------

○就労継続支援事業B型<KAN 食品開発センター>

(1) 就業時間

年間就業時間	年間休日	1日の就業時間
1, 778時間	112日	7時間

就労時間 9時00分～17時00分

休憩時間 12時30分～13時20分(昼食)

※その他、作業の間に適宜休憩

(2) 年間売上高の推移 単位(千円)

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
年間売上合計	—	—	33,827	55,596	73,757

(3) 平均工賃の推移 単位(円)

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
最高工賃	—	—	50,520	74,403	107,730
最低工賃	—	—	13,560	38,160	15,574
平均工賃	—	—	26,634	35,383	54,881

### 3. 明和寮

○就労継続B型<ビーサポート>

(1) 就業時間

年間就業時間	年間休日	1日の就業時間
1, 602時間30分	112日	6時間30分

就労時間 8時35分～16時35分

休憩時間 ①10時05分～10時20分

②11時50分～12時50分(昼食) 早番

③12時20分～13時20分(昼食) 遅番

④14時50分～15時05分

(2) 年間売上高の推移 単位(千円)

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
年間売上合計	150,546	164,328	168,422	227,282	219,426

(3) 平均工賃の推移 単位(円)

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
最高工賃	239,840	245,627	244,400	244,400	179,424
最低工賃	11,170	11,493	14,650	14,650	14,219
平均工賃	47,470	46,416	42,121	42,121	44,856

## 4 各事業所の状況

### 1. 光和寮

○就労移行支援事業〈名古屋東ジョブトレーニングセンター〉

一般就労を目指している障がいのある方のサポートを目的に平成20年1月にスタート。

就職を希望する人に一定期間（2年間）、就労に必要な知識及び能力の向上に必要な訓練を行い、就職の準備、実習、適職・職場探しに関する支援をするとともに、就職後も安定して働きつづけられるように支援をしている。

■定員 18名 利用期限 最長2年間

#### ■利用対象者

- 各種手帳所持者。
- 働く意欲や意思があり、職業訓練を受けることにより就労が見込める方。
- 自力通所が可能で基本的な身の回りの事が出来る方。

#### ■支援内容

- 就職に必要な様々な力を習得する為の訓練
  - ・訓練教材を使って個々の作業能力の向上を図るだけでなく、職場内のマナーやルール身だしなみ、コミュニケーションスキル（挨拶、返事、報告、質問）などの習得。
- 適性に合った職場探しや、就労後の職場定着。
  - ・個々の適性に合った職場での就職を目標に、就職活動の際には、ハローワークへの付き添いをすると共に、履歴書の書き方、面接での受け答えなどの習得。
  - ・就職後も定期的に職場訪問を行い、安定就労、長期就労が出来るよう支援。

20年度は（1名のA型就労含む）4名が就職し、21年4月には3名の就職が決まっている。今後は施設内の清掃を訓練カリキュラムに取り入れるなど、より実践に近い形で訓練できるよう訓練教材の見直しを行うと共に、様々な事業所での職場実習を通して「はたらく」をより現実と感じ、理解できるように実習先の開拓に力を入れ、利用者の一般就労をしたいとの思いが実現するよう多方面からの支援をしていきたい。



## ○就労継続支援事業 B 型

### (1) 治療院

名古屋ライトハウス創設以来の伝統ある職場で、鍼、あんまマッサージ指圧師等の資格を持った方々に働く場を提供しています。

営業時間は午前9時から午後7時半で、現在は10名の方が利用しています。

また、仕事時間は早番で午前8時半から午後5時20分、遅番では午前11時から午後7時半となっています。

国家資格のあんまマッサージ指圧師および、はり師が施術にあたっています。

施術については、初診の患者さまには訴えを良くお聞きし、施術コースを決定しています。コースとしては、60分の全身マッサージを基本に、お急ぎの方には30分マッサージ、ゆっくりくつろぎたい方には90分・120分マッサージがあります。鍼治療を組み合わせることにより、より患者さまのニーズに合わせた施術を行うように努力しています。

施術用ベッドは12台あり、広々とした治療室になっております。

鍼治療には使い捨て（ディスポ）の鍼を使用しており、安全面でも安心していただけます。また、受付（電話・窓口）や会計、施術ベッドの整備なども業務のひとつと位置づけています。

ライトハウス治療院では、接客や治療室のセッティングも就労支援と考えており、治療技術だけではなく、全体的な向上を考えております。

受付は利用者と職員の2名で行い、受付業務をスムーズに行っています。利用者の方々が休憩できるように控え室には机と椅子が設置してあります。



### (2) デザインプリント科

光和寮の印刷事業は、40年の歴史があります。活版印刷から始まり、現在は、オフセット印刷・オンデマンド印刷により、名刺、封筒、冊子等、官公庁を中心に受注活動を行っています。近年の印刷業界は、アナログ印刷からデジタル印刷に変化しています。現在、小ロットの印刷物に関しては、利用者の作業面において以前まで負担の多かった名刺、はがきなどのオフセット印刷から負担の少ないトナーによるオンデマンド印刷に切り替えました。車いすや、片麻痺の利用者でも名刺などの印刷及び断裁、テープ貼りなどの作業ができるように内製作業の効率化を図っています。今年度、名刺印刷においては、他の印刷を行っている障害者施設と連携をはかり共同受注といったしくみを新しく試みました。アナログ製版機の老朽化により、日本財団の助成により、CTP製版機の導入を進めています。断裁機についても老朽化と、安全面のため入れ替えを進めております。仕事の量の波が大きく作業の安定化のため、部品加工科、就労移行支援事業との協力体制を取りながら仕事を進めています。インデザイン、イラストレーター、フォトショップなどの新しい専門ソフトを使って、利用者の技術の向上を図りながら、受注拡大につなげています。



### (3) 録音速記

テープ起こしは国、県、市の会議、シンポジウム、審査会や、病院、大学などの講演会で収録された音声をワープロ原稿に文字データ化します。ただし単純に文字データにするだけではなく、その原稿が冊子になるのか、それとも裁判などの証拠（書証）になるのかで文章を作り分けています。前者は読みやすく。後者は音声に忠実にです。

当施設の録音速記の強みは、名古屋市内なら無料で出張録音することです。また、お客様のご要望があれば会場の手配、案内状の発送、アンケートの集計などお客様にとって面倒くさいことや、過去に出版された冊子などドキュメント類のデジタル化。カセットテープのダビングやデジタルメディア化など今日的な仕事も。さらに新しい提案をお客様にしていきたいと思えます。

### (4) 部品加工科

部品加工科では、年度後半より、世界的規模の急激な景気の悪化により、主力の製品を含め、全取引先の仕事が減少した。そのような状況なので、仕事の確保に奔走しています。

近隣の企業を中心に営業活動をして探していますが、仕事を出してくださる所が少なく、困っています。以前より、新規取引先の開拓は課題ですが、景気の後退でさらに厳しくなっています。今後も、全員で営業活動を積極的に行って仕事を確保したいと思っていますが、部品科の課題は、視覚障害の方を中心とした障害の重い方が多い部署なので、単純な作業と、障害の軽い方の両方の作業が必要です。また、出来るだけ高い工賃の支払いを目指しています。課題は、色々ありますが手作業・機械作業を含め、安定した作業量の確保を今後も目指したいと思っています。皆様の協力も頂けたら幸いです。よろしくお願いします。



### ○生活介護事業<デイサービスセンター クリエイト川名>

「あなたらしく集う場所、輝(ひか)る場所」をモットーに障がいをお持ちの方が創作活動、レクリエーション等を通じて、より豊かな生活を送れるよう支援を行っています。

- 定員 20名／1日
- 活動時間 10時00分～15時00分
- 職員体制 サービス管理責任者 医師(委嘱) 支援員 看護師
- 利用対象者 原則市内在住の常時介護等の支援が必要な方で、下記のような障害程度区分に該当し、生活介護の支給決定がされている障害福祉サービス受給者証の交付を受けている方。

- ①障害程度区分3以上
- ②年齢が50歳以上である場合は、障害程度区分2以上

## ■サービス内容

### □創作活動

楽しみながら残存機能の維持・向上を図るとともに、日常生活がより豊かなものとなるよう、ビーズ細工、手芸、陶芸、お菓子作り、茶道、華道等を行っています。



### □社会適応訓練

パソコン操作習得のための支援(外部委託)や視覚障がいの方の墨字学習としてハンドライティング等を行っています。



### □レクリエーション

カラオケやゲーム(麻雀・オセロ等)、盲人卓球などの活動の他、釣り・喫茶店等への外出を行っています。

### □機能訓練

身体機能の状況に応じた簡単な運動や感覚トレーニング等を実施。また、水曜の午前に太極拳を行っています。

□その他、生活相談・健康相談や給食・送迎等を行っています。

## ■生活介護事業の今後について

今年度の大きな動きとして21年4月1日経過措置利用者の移行先として地域活動支援センター立ち上げの準備に追われることになった。下半期は利用者説明会や活動内容の見直し等に時間を費やしたがその努力を来年度に反映していきたい。



### ○施設入所支援

個別支援計画に基づき、社会性に重点をおいた日常生活技術の支援、健康管理面について就労事業との連携を取りながら支援を行なっています。

入所授産施設から新事業体系である施設入所支援に移行して職員体制が変わり一年が経過しましたが、利用者に対する生活支援、環境整備についても質を落とすことがないようサービス提供に努めています。

## 2. ガイドネットあいさぽーと

### ○居宅介護等・移動支援事業

視覚障害の方への移動支援を中心にサービス提供をしているが、ヘルパー不足から、新規の利用相談に対しても、現状のサービスを再調整した上で可能な派遣依頼のみ受けている状況である。上記のため、実績としてはなかなか伸びないが、今年度は盲学校のお母さんからの口コミにより学校送迎の依頼を中心に問い合わせが増えた。

今後は、ヘルパー確保に努めるとともに、現状を検証する中で方向性を検討していきたい。

## 3. かわな

### ○福祉ホーム

地域でのごく普通の生活を希望しながらも、家庭環境、住宅等の諸事情により、居宅において生活することが困難な障害者に対し、3年を限度として低額な料金で日常生活に適応するような居室その他の設備を提供し、必要な便宜を図ることを目的としている。

定員	15名	世帯用居室－	1室 (41.16 m <sup>2</sup> )	
		単身用居室－	13室 (23.98 m <sup>2</sup> ～29.7 m <sup>2</sup> )	
		1 F－	3室 (車椅子使用障害者向け	1室は世帯向け)
		2 F－	5室、	3 F－ 6室

### <利用料一覧>

単位 (円)

区分	非就労	福祉的就労	一般就労	備考
利用料 (賃料)	0	7,500	15,000	単身世帯
	0	12,500	25,000	夫婦世帯
共益費 (管理費)	5,000	5,000	5,000	単身世帯
	5,000	5,000	5,000	夫婦世帯
合計	5,000	12,500	20,000	単身世帯
	5,000	17,500	30,000	夫婦世帯

### ■ 20年度の利用状況について

地域生活移行へのニーズは引き続き高く、問い合わせも増えている状況です。そのため、長期利用の入居の方には、市営住宅や一般住宅への移行もお願いしています。現状は、なかなか移行先が見つからない状況ですが、多くの方に施設を利用してもらうため、地域移行の促進のための声掛けも進めています。

福祉ホーム「かわな」は建設からすでに15年が経過、老朽化した設備・備品の修理が有ります。20年度は修理計画を立て、少しずつですが修理・交換を実施しました。今後も、改善が必要な、設備の修理と備品の交換に心掛け、故障時の対応が遅くならないよう管理運営をしていきたい。



#### 4. 港ワークキャンパス

1948年3月

障害者の自立を目指して製缶工場を始める

1983年8月

光和寮より分離独立、現在の港ワークキャンパスに

2008年1月

障害者自立支援法による新事業への移行を行った  
授産施設 → 障害者支援施設（入所支援・A型）

2008年4月

就労継続支援多機能型（A型・B型）へ変更

入所部門は、福祉ホームに移行

KAN食品開発センターがB型として

光和寮から港ワークキャンパスの所属へ変更

《施設外観》



20年度は云わば“負の遺産の清算”に労力、資金とも費やしたが、これにより体質のスリム化は形作ることには出来た。日本自転車振興会の補助金を受けて建設した新作業棟が完成し、就労継続支援B型のKAN食品開発センターが作業を開始したこともあり、心機一転、前向きに事業を進めていきたい。

《新作業棟 外観》



《作業棟内》



《会議室》



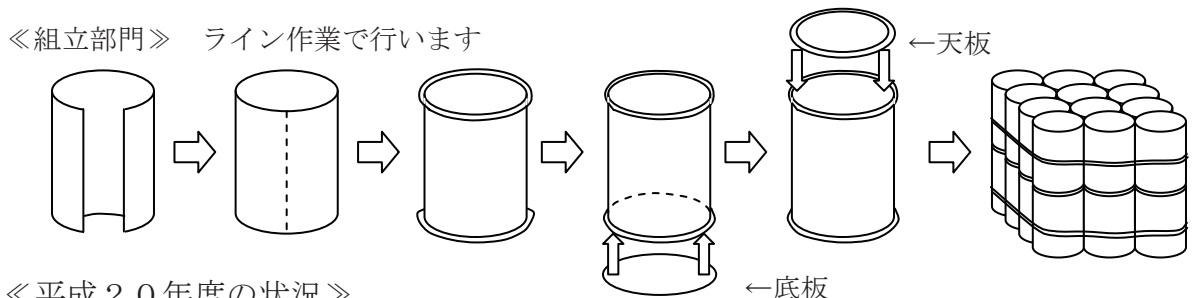
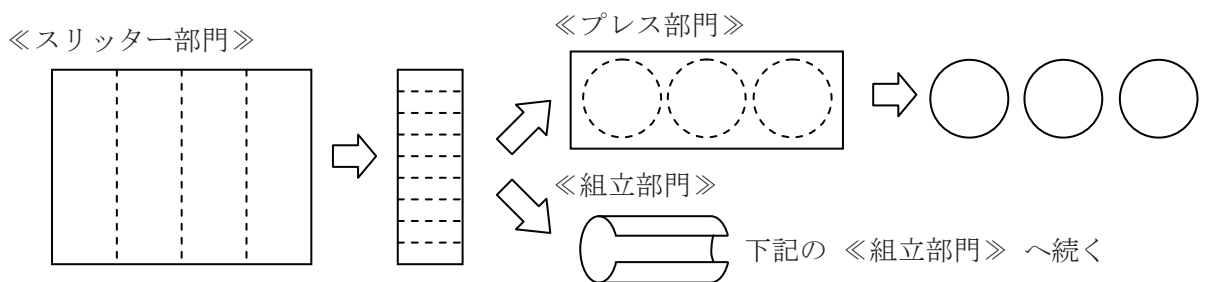
○就労継続支援A型 <ライトハウス名古屋金属工場>



金属加工の事業を行い、雇用契約を結んで働く場として、様々な障害がある方に働いていただくため従業員一丸となって働いている。

缶を主体として行っており、  
スリッター部門 … 材料の切断  
プレス部門 … 部品を抜く  
組立部門 … 缶の生産で構成されている。

缶の形も、丸型、角型、テーパー型など、バリエーションが豊富である。障害がある方が働きやすいように製缶工程を細分化し、作業中の移動を少なくしている。



《平成20年度の状況》

今年度は、缶製品の売り上げが大幅に落ち込み、その傾向が底を打つ気配もみえない。原因としては、4月、7月と2度にわたり20%近く値上がりした原材料費を、製品価格に反映しきれなかった。また、アメリカ発の世界的規模の不況が、住宅着工件数の激減、自動車の販売不振に影響したため、接着剤・潤滑油・塗料等の製造や出荷を直撃した。

就労継続支援A型に移行したことにより、最低賃金の適用や各種保険・年金に100%加入したため、人件費を押し上げて経営を圧迫している。

A型事業では、就業規則通り従業員に対する定年制の実施、定年後継続契約の見直し、B型事業での工賃体系の見直し等極端な年功序列賃金体系のフラット化を実施。全体として、総人件費を抑えながら頑張りに報いてあげられる賃金体系に移行しつつある。

職員の仕事を明確化する事により、就労継続事業、利用者へのケアが手薄にならないよう努めたい。

《作業風景》





○就労継続支援B型 <KAN食品開発センター・園芸作業>

(1) KAN食品開発センター

パンの缶詰は、阪神大震災を機に保存食として生まれた。施設として障害者が地域で自立して暮らしていくことを支えるためには、内職の延長に近い事業だけでは限界があり、新規事業を検討した結果、パンの缶詰に行きついた。従来の“パン生地を缶に詰めて焼く”製造方法ではなく、“焼いたパンを缶に詰める”製造方法を考案した。

《生地を丸める作業》



《焼いたパンの缶詰め作業》



《特 徴》

- ☆ 1缶に2個入りで、焼きたての風味がそのまま
- ☆ 災害時、アウトドア、おやつ、贈答品にも最適
- ☆ ふっくら・やわらかなまま3年間の保存が可能
- ☆ チョコチップ味・レーズン味・コーヒナッツ味の3種類がある

(2) 園芸作業

緑化資材(いわだれ草など)の生産を行っています。自然相手の作業なので、思うようにならないこともありますが、植物が育つ過程には感動を覚えます。

《再度オープンへ》



《平成20年度の状況》

港ワークキャンパスの所属へ変わり、より障害者の自立に向けて生産力UPを目指していく。慢性的に赤字を生みだす体質が克服できず、売上より経費の方がかかっていたため、月100万円の経費削減を見込んで下記の対策を実施した。

《ラベル貼り作業》



- ☆ 長久手、弥富での農業事業からの完全撤退
- ☆ KAN食品開発センターの技術顧問契約を解除
- ☆ 3月末の港ワークキャンパス新社屋への移転

しかし新規のレトルト事業を含めた内装・工事等で、一時的な経費増となった。来期は㈱サン食品との協業により、レトルト加工を中心とした食品加工に注力していく。

《園芸作業》



☆☆ 完成 ☆☆



## 5. みなと

### ○福祉ホーム

地域でのごく普通の生活を希望しながらも、家庭環境、住宅等の諸事情により、居宅において生活することが困難な障害者に対して居室、その他の設備を提供している。

#### 《対 象》

- ☆主に当法人で就労している方
- ☆共同生活をおくる上で支障がない方
- ☆基本的に、掃除、洗濯、ADLが自立している方

#### 《設 備》

定員20名 単身用居室20室（車イス用2室）

#### 《料 金》

施設利用者	家 賃	7,500円
	共 益 費	5,000円
	光熱水費	10,000円
合 計		22,500円

#### 《居室内》



#### 《平成20年度の状況》

平成20年4月に施設入所支援から福祉ホームに移行して1年が経過した。福祉ホームになり居宅介護を利用することが可能となったため、ヘルパーの利用を積極的に働きかけた結果、部屋の片付けがひとりでは困難だった方が、ヘルパーを利用して掃除などを行うことができるようになり、徐々に効果も見え始めている。今後も地域資源が利用できるように情報等の収集、提供に力を入れていきたい。

## 6. 明和寮

1979年11月

名古屋市初の重度身体障害者授産施設を開所

2008年1月

障害者自立支援法に伴い、新事業体系へ移行  
就労継続支援事業（B型）「ビーサポート」・  
就労移行支援事業「港ジョブトレーニングセ  
ンター」・生活介護「ぷちとまと」を開設

2008年4月

入所部門の一部が福祉ホーム「あかり」として再編。黎明荘は通所ホームから福祉ホームとして再編され、それぞれ事業開始。

#### 《施設外観》



○就労移行支援＜港ジョブトレーニングセンター＞

## 港ジョブトレーニングセンター（就労移行支援事業）のご案内

～ 就職を目指すあなたに・・・ ～

就職・再就職したい

就職活動を手伝ってほしい

働いた経験はあるが、人間関係でつまずき辞めた

働いた経験がなく、自分に合う職場がわからない

現在在学中、卒業後には就職にチャレンジしたい

- ・技能・・・製造・加工系、事務系、生活系などいろいろな作業体験をしましょう。
- ・基礎講座・・・どこで働くとしても必要なルール・マナーを講義・演習しましょう。
- ・ビジ初メ講座・・・履歴書作成や面接練習など、就職活動に必要な準備をしましょう。



おまかせください

**港ジョブトレーニングセンター**

（就労移行支援事業）

**港で見つけよう**

**新しい自分**

**明るい未来**

### ■訓練生受入から就職

①相談受付→②来所していただき現状をお聞きする→③エントリー→④アセスメント（聴き取り、作業評価）→⑤個別支援計画の作成→⑥契約→⑦支援開始→⑧訓練導入期（2～3ヶ月）：環境への適応、特性の把握→⑨訓練中期：課題の整理、アプローチ、求人活動準備→⑩訓練後期：具体的求職活動→⑪採用→⑫定着支援

20年度は事業が開始してから本格的に1年間活動した年となった。

就職者が3名、就職内定者2名（4月以降採用）と好調な1年を過ごした。契約者は3月31日現在で21名となり、年間を通して平均12名/月の利用となった。3月だけで見ると15名/月となっており、来年度には今年を上回る利用率になると見る。

求職活動について数多くの面接等を受け、なかなか採用にいたるには難しいものの、活発な動きが出来たのではないかと感じる。また、企業実習も積極的に行った結果で就職に結びつく方もいた。さらに、定着支援にも力を入れ1名は6ヶ月の職場定着が出来ている。



この就労移行支援事業において、訓練することはもとより「就職」させていくことが命題だとスタッフ間において共有してきた。そのためにはこういった動きをすれば良いか、と日々、模索してきたことが結果として出てきていると感じる。また、「就職」はもとより「定着」はさらに重要であり、1日でも長く就業できるよう支援していかなければならない事をこの1年間で学ぶことができた。

## ○就労継続 B 型<ビーサポート>

20年度には予測できなかった事態が起こった年となった。

上半期にはこれまで以上の生産力と収益を上げ、今年度はどこまで数字が伸びるか、と高揚しかかった矢先、下半期途中には平成の大不況が巻き起こり、世界的な景気の落ち込みとなった。自動車関連の仕事が多い我々も影響を受け、あまりの急な展開に対策を打つことができず、成り行きにまかせざるをえない状況であった。

そんな中でも各事業ともに踏ん張り、大きな損失を出すことなく今年度を終えることができたのも、利用者・職員共に最後まで頑張り抜いた結果である。今年度は計画通りに、機器整備が完了し、更なる生産性およびクオリティの維持・向上をすることができた。

### (1) 機器整備について

現在、当事業で使用している機器の多くが老朽化してきており、その中でも部品の製造中止やメーカーの倒産などにより、今後故障した場合に現生産がストップしてしまう緊急度の高い3点につき、日本財団に助成金を申請して整備を行った。

- ミシン・クロス折機 (印刷事業)
- 製版システム (印刷事業)
- エンドレスシーラー機 (自動車部品事業)

### (2) 各事業の動きと結果

#### 《印刷事業》

20年度から導入した専用の編集ソフト(CS3)を使用し、版データの作成・自動面付け・写真の補正などを行うようになり、編集の強化を進めている。また、夏に助成金を利用して導入したCTP製版システムによって、今までランニングコストがかかり、メンテナンスの負担も多かったPS製版システムから移行することによって、作業効率を大幅に向上することができた。但し、受注量が増えるにつれ、製本作業の負担が大きくなってきており、老朽化が進む製本機器の新規導入を進める必要が出てきている。

数字的には昨年度より落ち込む予測の中、ほぼ同額の結果を出すことができ、満足のいく年度であった。

#### 《組立グループ》

組立加工事業・自動車部品事業・包装加工事業の3事業で構成される組立グループでは、前半、予算を大きく上回るペースの売上げを上げてきたが、景気の落ち込みにより10月以降大幅な減収となった。今後もこの景況に



《印刷事業》



《組立加工事業》

ついでに予測はつかないが、こういった時こそ足元を固めるべく、作業の見直し、作業現場の整理整頓、利用者・職員配置の再考と連携の強化への動きを進めている。その上で、①包装加工事業のプラスチックパックの成型、組立加工事業のブリスター熱圧着、自動車部品事業のアセンブリといった一連の製品加工がワンストップでできる

②事業の枠を超えた連携と他施設との協力関係を生かした生産体制、こういったことをメリットとして地道な営業活動を行っていくようにしていく。

また、利用者サービスとして、各指導員は安定した賃金支給・作業量の確保を念頭に置き、利用者さんが安全第一でやりがいと充実感を得られるような事業活動に努めていく。



《自動車部品事業》



《包装加工事業》

## ○生活介護事業<ぷちとまと>

在宅の障害を持つ方々に、外出の機会や人との交流、社会参加の機会や趣味活動等、充実した日常生活を営むことができるよう支援を行っている。それらを通して「小さな生きがい」や「楽しみ」、「居場所」を提供したい。

20年度末現在12名の方が登録されており、年齢、障害程度・種別も幅広い。その方々ができること、やってみたいことを個別に取り組んでいただいている。

### 《勤務体制》

(1) 職員配置 4名 生活支援員 3名 看護師 1名

(2) 開所時間 10:00～15:00

### 《日々の活動内容》

#### ■日常生活支援

- ・昼食 個々の障害状況に合わせた形態で提供。食事介助の実施。
- ・送迎 港区及び熱田、中川区の一部。
- ・入浴 ボード浴にて対応、可能な範囲で相談に応じる。
- ・排泄 介助、おむつ交換等、個別に対応。
- ・各種レクリエーションの提供（別記）
- ・その他（バイタルチェック、足浴、体重測定等）



《重度の方を中心に風船バレー》

## 《レクリエーション等の活動》

- ・全体での取り組みとして、風船バレー、散歩、買い物や喫茶店等でのおやつ、園芸、お菓子作り、工作（季節の壁画、飾りつけ作り）などを行っている。
- ・個人の、または小グループでの取り組みとして、パソコン、インターネット、ビデオ鑑賞、カードゲーム、卓上ゲーム、ジグソーパズル、ビーズアート等を、個々人の希望や障害状況に合わせて行っている。
- ・季節行事として、花見、七夕祭り、スイカ割り、遠足、クリスマス会等を実施。
- ・レクリエーションへの参加や、過ごし方は基本的に自由とし、ご本人の希望や障害状況、体調等に応じて、マイペースで過ごしていただいている。



《花見にお出かけ》

## ○施設入所支援

いわゆる旧法が定める身体障害者授産施設（入所）から、障害者自立支援法が定める日中活動の場と施設入所支援に移行した関係上、当施設の就労継続支援事業B型（ピーサポート）を利用する人が経過的に入所している事業である。経過的な事業のため、制度上の職員配置は宿直のみとなっている。

現行の障害者自立支援法が変わらなければ、平成23年度末には就労継続支援事業B型との利用（併用）ができなくなるため、それまでに福祉ホーム化する方向で準備を進めている。

実際には、明和寮のすべての事業に関連し、主に生活部分の支援を行う「生活支援」「生活支援・介助（寮父母）」「看護」「給食」の各部門がある。

施設入所支援利用者にのみサービスを提供しているわけではないが、紙面の関係上、施設入所支援として整理し、各部門の業務、状況を以下にまとめる。

### （1）生活支援（3名体制、8：20～19：00）

利用者個々の生活相談支援、地域生活移行支援、老人ホーム等他施設への移行支援、利用者と市町村・関連機関・家族等の連絡調整、社会資源などに関する情報提供、受給者証など各種手続きの支援・代行業務、ボランティアの受入、連絡調整などの業務を行っている。

### （2）看護（2名体制、9：00～18：00）

利用者の健康維持・管理に関する支援、医療機関との連携や家族との連絡調整、身体的・精神的状況の把握と対応、情報管理等の業務を行っている。また、健康管理の自立に向けての支援にも力を入れている。

### （3）生活支援・介助（寮父母）（2名体制、7：00～19：30）

利用者の日常生活支援（食事準備・清掃・ゴミの収集・入浴準備・ふとん干し・シーツ交換・その他依頼事）や相談業務を行っている。

また、障害の進行や加齢に伴う身体機能の把握、安全に生活できるような環境の配慮にも努めている。

#### (4) 給食

給食は、365日の朝・昼・夕を提供している。食事の種類は、常食の方を主として、糖尿・腎臓・透析食などがある。

特徴として、月に1度のパン・ご飯の選択や主菜の選択を行うなど、家庭に近い手作りで安全・安心な食事の提供に努めている。

### 7. みなとガイドネット

#### ○居宅介護等・移動支援事業

行きたい！見たい！のお手伝いをしようと事業所を立ち上げて丸5年。病院へ行くこともあります。でも、楽しいところへ行くこともあります。そんなニーズに応じて、身体介護も家事援助もするようになりました。ヘルパーさんも少なかったのですが、徐々に増え利用者様の要望を断ることが少なくなりました。居宅介護の身体介護も昨年に比べると2倍になりました。



H20・8郡上八幡にて



東谷山にて



セントレアにて

### 8. 黎明荘・あかり

#### ○福祉ホーム

##### 《運営方針》

福祉ホームあかり、黎明荘ともに、身体に障害を持つ方に対して、自立を目的として3年の期限を設け、低額な料金で居室やその他の施設を提供している。

##### 《入居対象者》

- ・主に当法人で就労している方
- ・基本的に、ADLの自立している方。ヘルパー利用で対応できる方も入居可。

#### ■黎明荘

定員・・・10名

設備・・・5戸（2DK、個室10室）

料金・・・家賃 7,500円

共益費 5,000円

---

合計 12,500円



黎明荘 居室内

※ 光熱水費は使用した分を支払う

## ■あかり

定員	・・・	20名
設備	・・・	17室（洋室6室、和室11室）
料金	・・・	家賃 7,500円
		共益費 5,000円
		光熱水費 10,000円
		合計 22,500円



黎明荘 居室内

## 《平成20年度の状況》

平成20年4月、施設入所支援から福祉ホームあかりに移行し、身体障害者通所ホームから福祉ホーム黎明荘へ移行した。

福祉ホームになったことにより、社会資源の活用ができるようになったため、ヘルパーの利用を積極的に働きかけた。平成21年3月末の時点では、あかりは17名中14名が、黎明荘は8名中6名がヘルパーを利用する状況にまでなった。ヘルパーによる定期的清掃により、居室の衛生環境が向上したり、ガイドヘルパー活用により外出の機会が増えるなど、生活の質の向上が見られる。また、ヘルパーとの関係が、人間関係を構築していく力を育てることにも一役かっていると思われる。

今後はヘルパーに依頼できない部分等をどのように対応していくのかを考え、情報等の収集や個々にあった情報提供に力を入れていきたい。



あかり 居室内

## 9. 港区障害者地域生活支援センター

### ○指定（委託）相談支援事業＜Kiraraぽーと＞

平成14年7月支援費制度の開始を控え、明和寮が名古屋市からの委託を受け、港区内の在宅の身体・知的障害者児に対して相談員1人体制で開始した。平成18年4月より、障害者自立支援法の施行を受け、相談員3人体制に強化された。

支援内容は、身体・知的に障害のある方やそのご家族が住みなれた地域で、より豊かな生活がおくれるよう、訪問・外来（電話、FAX、メール含む）での総合的な相談支援を行っている。福祉の情報提供、サービス利用の援助、ピアカウンセリング、サービス利用計画の作成などを行い、地域で暮らす障害者児を皆で支えていく仕組み作りを目指している。

### 《施設外観》





## 《平成20年度相談実績件数》

訪問相談664件 外来相談1660件 協議会等の開催3.5回

■訪問相談支援には申請代行、他機関との調整、個別支援会議なども含む。

外来相談支援には電話・電子メール等も含む。

相談件数は、昨年より外来相談の件数が500件ほど増加した。個別支援会議は年間15件。相談内容は、①支援者とうまく関係が作れなくて支援を安定して継続するのが難しいケース、②重度障害のため長時間ケアが必要な人のサービス調整、③入所・入院から退所・退院など地域生活へ移行するために、居住場所探し・在宅生活を支えるためのサービス調整、④介護者が高齢となってきたケースなど、継続的な相談支援や他機関との連携が必要なケースが増えてきているため、定期的な訪問などに力を入れた。前半はヘルパーもあまり見つからず、サービス調整に困難を極めたが、後半はスムーズに行えるようになってきた。

地域課題の協議、個別のケース検討、ネットワーク作りを目的とした港区障害者地域自立支援協議会（定例会3回、研修会1回、学習会1回）を開催、研修会では参加団体の活動報告などをして頂き、地域資源について整理したガイドブックの作成も行った。また、港区障害者自立支援事業者連絡会（事務局会2回、定例会3回、学習会2回）の開催を支援した。

他、サービス利用計画作成（3月末 契約者8人）、障害程度区分認定調査（年間136件）、名古屋市賃貸住宅入居等サポート事業（2件入居支援、継続的支援）、障害者自立支援配食サービス受付窓口などの業務を行っている。

## 《情報コーナー》



## 《事務所》



## 10. 地域活動支援センター あちえっとほーむ

### ○地域活動支援事業

平成19年6月に新事業として開所して以来、順調に利用者は増えており、3月末で64名の登録があり、一日平均利用者数は約11名で週2回程度の利用者が多い。

創作的活動の場や交流の場を提供することにより、社会参加の促進と地域住民への障害理解に努め、地域生活支援を充実させるというこの事業の目的を受け、障がいのある方のデイサービスとして、パソコンや料理クラブ、編み物、手芸、音楽療法、太極拳、点字、視覚障害パソコンなど14講座に加え、今年はビーズ、麻雀、ビデオ鑑賞会の3講座を加え、計17講座を実施した。講座以外にぬり絵や折り紙・学習ドリルなどの自由活動も行ってきた。期の途中で職員の増員もあり、より個別支援を充実させることができた。様々な支援活動を通じて社会参加やピア交流の場、やすらぎの場所、次へのステップをかなえるための力添えを目指している。

今年は利用者として来所していた人がパソコン講座でスキルを身に付け、ボランティア講師として活躍されたり、生活リズムを整えて就職に繋がったケースもあった。



## 11. わくわくキッズ

### ○児童デイサービス

平成19年7月の開所から1年8ヶ月経過し、3月には契約数27件、月間利用延べ回数の平均は172回となり、1日平均利用者数は定員10名に対して9名となった。

日常生活の基本的動作の習得や集団生活に適應することができるように、グループ支援と個別支援を組み合わせ、子どもの成長にあった様々な遊びや活動を提供し、自分にできることが増えるように見守り、最後までやり抜く力を育てていくことを目指して取り組んできた。



毎日の利用者の中には身体障がい、知的障がい、自閉症などの障がいを持った子どもたちが集まっている。わくわくキッズでの生活に慣れ、お互いに友達として、仲間としてのかかわりが深くなってきた。その結果、活動の中で一緒に七夕やクリスマス会、野外活動、節分などを通して、一人ひとりの成長へのステップとして楽しい毎日を送っている。

## 5 QMS活動報告

～名古屋ライトハウス全体の活動として～

### ☆「ハーフタイム宣言」の制定（平成20年5月）

キックオフ宣言からISOに取り組み始めて8年目を迎え、継続した法人統一の活動として、PDCAサイクルの導入や文書化による業務の標準化など、一定の成果を得ながらも、職員一人ひとりにとって「ISOが有効である」との実感が少なく、制度が大きく変動し日々の業務が非常に複雑になってきている状況では重荷とも感じられるようになってきていた。

<これまでの問題点>

- ・業務実態との乖離・・・本来の仕事とISOの仕事とのダブルスタンダード化
- ・複雑化・・・複雑な管理により柔軟性を欠く
- ・目的の欠如・・・「何のため？」 「利用者につながっていない」の声
- ・業務を「管理」する視点や上からのメッセージの浸透不足

<大きな改革への出発点として>

「ハーフタイム宣言」

- ・今後、ISOという言葉が極力廃し、日常業務を主体とした仕組みをつくりまします。
- ・既存のISOの枠を取り払い、本当のライトハウス全職員が参加する仕組みをつくりまします。
- ・職員一人ひとりの成長こそが、サービスの品質を向上させ得るという原点に立ち、
  - a) 問題解決や改善に繋がる職員の気づきの促進を目指します。
  - b) 人と人との綿密な連携が安定したサービスを生み出すことを形にし展開します。
  - c) 職員が日々の活動を通じて目指す新しい価値を確立します。

上から下まで日々の業務に追われてしまっている現状の中で、今こそ将来を見据えた方向性や目標に対して一丸となる組織づくりが必要であり、複雑化した業務を一定基準に照らした管理をすることで、無駄を削ぎ、最小限の力で効果を出す。

さらに、少しずつでも余力を生み出すことで、改善活動を通じ応用力のあるサービス展開を実現する。そのためにISO有効な「ツール」として活用することとした。

<宣言を形に>

この宣言を皮切りに、改革のキーマンとなる施設長・課長・内部監査員・QMS委員の階層ごとに今後の方向性の理解を求める働きかけを行い、QMS委員を中心にこの宣言の最初の形となる「品質マニュアル」の改訂に着手し、8月に事前評価版・12月に直前評価版を発行した。

## ☆「これはもはやISOではない」－『品格マニュアル』の制定（平成21年2月）

ISOへの適合のため、法人統一の手順を記したこれまでの「品質マニュアル」から、業務改善活動を図りながら（促しながら）、職員を育成するための管理マニュアルへ

「品格マニュアル」より抜粋

### 1-1 品格マニュアルの作成目的

本品格マニュアルは、社会福祉法人名古屋ライトハウスが以下の目的を達成するために作成したものである。

- ・利用者に福祉サービスを安定して提供するため
- ・サービス向上を目指した継続的な業務改善活動をより確実・より効果的にするため
- ・職員や関係者が同じ価値観に基づいて判断ができるようにするため
- ・刻々と変化する福祉サービスへの社会的ニーズに対し、福祉サービスの理想像を追い求め続ける集団を形成するため

これらの達成に向け、利用者の満足度、職員の充実度を1つの指標として、「JIS Q 9001 品質マネジメントシステム」を活用していく。

…なぜ「品格」マニュアルか

対人援助を中心とする当法人の福祉サービスは、利用者のニーズや期待に応えるサービスを提供する職員や関係者自身の成長をもってしか「品質の向上」は成し得ないと考えられる。この品質マネジメントシステムの実施により、業務改善活動を通じてより理想的なサービスを提供する「人材の育成」を最大の主眼とする。職員や関係者全員が「業務改善の継続により自らが成長し、名古屋ライトハウスの理念の実現を目指す」という、名古屋ライトハウスの一員としての気高さをもちて日々の活動に取り組めるようなシステム、またそのような気風を作り上げるシステムの運用を目指し、「品格」マニュアルとした。

<品格マニュアルの下で新たなQMS活動へ>

- ・法人職員全員の参画
- ・役割の明確化 — 施設長、課長がQMSの管理者（管理する責任者）であること。  
施設長—課長および施設全体の管理 / 課長—個々の業務および職員の管理
- ・組織の「つながり」を重視し、全ての活動が組織として行われること。
- ・文書など形態に固執せず、それぞれの業務・活動を担う職員の確かな動きに注目する。

<活動の成果に向けて>

今回のマニュアルの改訂は単なる方向性の明示に過ぎず、品質目標への取り組み方や内部監査などの改善、それらを含む日常の業務に対して、職員それぞれの役割に応じた関わり方の改善により、活動の成果を次年度より少しずつでも積み上げていかなければならない。

## 6 その他活動について

### 1. 東部施設

#### ○行事

- |                |           |
|----------------|-----------|
| 1. 夏祭り         | 8 / 2     |
| 2. お月見会        | 9 / 1 6   |
| 3. 慰霊祭         | 1 0 / 1 0 |
| 4. 親和会旅行       | 1 0 / 3 1 |
| 5. 地域交流フェスティバル | 1 1 / 8   |
| 6. クリスマス会      | 1 2 / 1 9 |
| 7. 餅つき         | 1 2 / 2 6 |
| 8. 鍋パーティー      | 1 / 3     |
| 9. 親和会レクリエーション | 3 / 1 4   |

#### ○クラブ

- |            |                |
|------------|----------------|
| 1. スポーツクラブ | 不定期開催<br>など・・・ |
|------------|----------------|

### 2. 西部施設

#### ○行事

##### <内部での行事>

月 日	行 事 名
8月23日	夏の宴2008（納涼祭）
10月3・4日	親和会一泊旅行
10月11日	名古屋ライトハウス物故者慰霊祭
12月22日	もちつき
3月 7日	ボランティア協力食事会

##### <外部行事に参加>

月 日	行 事 名
5月18日	名古屋市障害者スポーツ大会（陸上の部）
6月 7日	ウェルフェア2008
8月24日	名古屋市障害者スポーツ大会（水泳の部）
9月28日	アンサンブルアミーコンサート
11月16日	港区障害者と区民のふれあい広場
11月16日	あいち障害者フライングディスク競技大会
11月23日	名古屋市障害者スポーツ大会（卓球の部）
11月30日	名古屋市障害者スポーツ大会（ボーリングの部）
2月28日	福祉の店

○クラブ活動

将棋クラブ、切り絵クラブ、書道クラブ、スケッチクラブ、卓球クラブ、手芸クラブ、陶芸クラブ、吹き矢クラブ、フラワークラブ、名曲クラブ、カラオケクラブ、ゴロバレークラブ